

“隣人”を想う 新常識をインストールしました

小野田真由美 介護施設勤務

先日の電車内での出来事です。私の前の席に、同姓カップルであろう男性が座りました。ごく自然に身を寄せ合い、仲良く1つのスマホをのぞき始めた二人。正直に言うと、私は一瞬ギョッと驚いてしまいました。目の当たりにしたのが初めてだった、ただそれだけの理由なのですが、そのわずかな反応で相手の心や体を固めてしまっていたかもしれません。

無知とは、罪です。ごめんなさい。でも、今夜“知った私”は、これからアライです。日本で結婚の平等が実現したら誕生する「夫婦」や「家族」は、推計約12万組。同性婚は、少子高齢化が進むこの国が存続していくために必要な存在だと痛感しました。にも拘わらず、異性と同性との間には、これほど多くの“透明な壁”がある。死に目に会えないどころか、病室にも入れない、生き別れまで…。「家族」が減るだけでなく「国民」が増えない国で、異性ではないことを理由に婚姻を認めない理由が、この先もあるのでしょうか。

「家族観や価値観、社会が変わってしまう」。岸田元総理、あなたの考え方では、個人の尊厳のない“選ばれない国状態”が続き、日本を救う一つの方策を取りこぼしてしまうのでは。人材が国外に流れ、国内への流れが阻まれているという現実。一方で、養育里親として子育ての担い手が増え、GDPを押し上げる可能性もあるというのに。

同性を愛する。神様から授かっただけの心を、人はなぜ、これほど差別するのでしょうか。「家族」になるために、見た目や血のつながりはそれほど大切ですか。同性婚を法制化することに躊躇する本当の理由を説明できる議員はいますか。「家族」の根幹たる要素は、外見ではなく、培っていく愛情や信頼関係にある。共に暮らし、子育てをしているのに法的に「他人」とされるのは、理不尽の極みです。“二級市民”に扱われている、“存在をないことにされている”など、当然、憲法違反です。人々の精神を含め、ライフスタイルが様変わりしている今、若い世代へのしっかりとした教育があればイノベーションは起きやすいと思います。大人が伝え方を間違えなければ、ですが。

次の10年の景色は、きっと変わっていますね。多様性や心理的安全性がもっと広がり、鹿島さんや同じ境遇の方々が、愛する人たちと生涯を共に安心して暮らせる未来となるよう応援しています。結婚の自由をすべての人に。Never say Never! 私は今夜、皆さんを“隣人”と思う新常識をインストールしました。

素晴らしいえにしを、ありがとうございました。